



## 社会とともに

### 企業市民として持続可能な社会の実現に貢献する

日産は「人々の生活を豊かに」というビジョンのもと、魅力ある製品やサービスを世界中に提供すると同時に、持続可能な社会の実現に向け企業市民としての役割を果たしていきたいと願っています。日産はグローバル社会の一員として、より良い社会の創造に寄与するさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

✧ グローバル企業としての取り組み

✧ 日産らしさのある社会貢献活動を目指して

日産は社会の持続可能性に寄与するため、「教育への支援」「環境への配慮」「人道支援」の3つの重点分野を中心に、企業市民として果たすべき社会貢献活動に取り組んでいます。活動にあたっては、社会貢献活動に携わる部署および役員による会社横断的な組織「社会貢献 ステアリング コミッティ」が、一貫性のある活動に向けて議論を重ね、世界各地の日産の事業所とともにグローバルでビジョンを共有しながら、それぞれの国や地域の実情、ニーズに合った活動を展開しています。

事業所近隣では、雇用の創出など経済的な貢献はもとより、社会的な貢献を通して地域コミュニティとの強固な関係づくりに努めています。国や地域を越えて取り組むべき課題には、グローバルな考え方と各地域に最適な活動のバランスをとりながら、日産らしい貢献ができるよう心がけています。

✧ 社会貢献 ステアリング コミッティに関する組織図



✧ <http://www.nissan-global.com/JP/CITIZENSHIP/>

社会貢献の取り組みに関する詳しい情報は、上記のウェブサイトに記載しています。あわせてご覧ください。



はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

日産は社会貢献活動への取り組みにおいて、以下のような点が重要と考えています。

- 1. 社員の自発的な参加意識を育てる**  
社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、より多くの社員が企業市民意識を持つことにより、大きな社会貢献の輪を育てていきます。
- 2. 会社の強みや特性を生かした活動を考える**  
金銭的な支援だけではなく、ノウハウや日産関連施設の活用など、日産が本業で培った資源を十分に生かすことによって、持続的な活動を行うことを目指しています。
- 3. 専門性のあるNPOやNGOとの協働**  
日産の社会貢献活動をより実りあるものとするために、NPO（民間非営利組織）やNGO（非政府組織）と連携した協働プログラムの可能性を探求していきます。

⋮ 地球の未来をともに考える「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」に協賛 ⋮

日産ではグローバルな社会貢献活動として、「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」に協賛しています。この企画は「2050年の世界にあなたはどのように生活しているか」をテーマとする来場者体験型の展示で、2008年4月にロンドン科学博物館でスタートし、10月には米国ニュージャージー州のリバティ・サイエンス・センター、2009年4月からはマレーシアのクアラルンプールにあるナショナルサイエンスセンターでも開催されました。日産は、「Moving（移動）」の分野で電動シティコミューター「PIVO」の1/4スケールモデルや車載用リチウムイオンバッテリーなどの環境技術を出展。中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム 2010」における取り組みの成果を子どもたちにも分かりやすく紹介し、環境問題をともに考える機会を提供しています。

⋮ 日本での社会貢献活動 ⋮

⋮ 25年目を迎えた「ニッサン童話と絵本のグランプリ」 ⋮

日産が（財）大阪国際児童文学館とともに開催している「ニッサン童話と絵本のグランプリ」が25周年を迎えました。子どもたちに優れた童話や絵本を届けることを目的とした本グランプリは、アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストで、大賞作品が小学生の国語教科書に採用されるなど、1984年の創設以来数々の優秀作品を輩出しています。第25回グランプリでは、日本全国から寄せられた童話2,351編、絵本679編の応募作品の中から38編の入賞作品を選び、表彰を行いました。大賞に選ばれた作品は毎



ロンドンに続き  
米国ニュージャージー州でスタートした  
「ザ・サイエンス・オブ・サバイバル」



数々の優秀作品を輩出している  
「ニッサン童話と絵本のグランプリ」

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

年出版すると同時に、日産の販売会社を通じて公立図書館（約3,500館）や幼稚園など（約650園）に寄贈しており、これまでの累計寄贈冊数は約16万冊に上ります。

絵本の世界を体験できる「ニッサンゆかいな絵本と童話展」（（財）児童育成協会との共催）も17回目を迎えたほか、2008年度は本グランプリの25周年を記念して、大賞入賞者と審査員が創作上のヒントを語る「創作オープンセミナー」を東京と大阪で、「原画展」を日産本社ギャラリー（東京・中央区）で開催しました。

☺ **気象キャスターとの協働による「日産わくわくエコスクール」を開講** ☺

未来を担う子どもたちに環境意識を高めてもらうため、日産はNPO法人気象キャスターネットワークとの協働による環境教育プログラム「日産わくわくエコスクール」をスタートしました。2008年9月、神奈川県厚木市立愛甲小学校の5年生約90名を対象に行われた初めての出張授業では、NPO所属の気象キャスターによる気候変動や地球温暖化の解説に続き、日産社員が自動車における環境への取り組みを紹介。未来のエネルギーを体験する燃料電池キットカーの製作、日産の燃料電池車「エクストレイル FCV」への同乗体験なども実施しました。日産では、多くの子どもたちと環境問題や未来のエネルギーについて一緒に考えていく機会として、今後もこのプログラムを神奈川県内の小学校を中心に拡充していく予定です。

☺ **第2回「軽井沢八月祭」に協賛、燃料電池車の同乗体験を実施** ☺

日産は、2008年8月16日から24日まで開催された第2回「軽井沢八月祭」に協賛し、燃料電池車「エクストレイル FCV」最新モデル2台を提供しました。「軽井沢八月祭」は音楽祭を中心とした文化・芸術の祭典。日産は実行委員会が目指す「環境に配慮したイベント運営」に賛同し、2年連続の協賛となりました。開催期間中、2台の燃料電池車は演奏者の送迎に使用されたほか、来場者の同乗体験会や現地に特設した水素ステーションで水素充填のデモンストレーションを実施。地元の小学校4校を訪問して約330名の子どもたちに環境授業も行いました。また「軽井沢八月祭」に関連して、軽井沢絵本の森美術館で「ニッサン童話と絵本のグランプリ」作品展や童話の読み聞かせイベントなども開催しました。

☺ **産学連携の新たな社会貢献活動「日産デザイン わくわくスタジオ」** ☺

産業界と教育界の連携による新しい社会貢献活動として、日産は神奈川県内の小学校5年生・6年生を対象とした出張授業「日産デザイン わくわくスタジオ」を開始しました。これは文部科学省が推進するキャリア教育プログラムの趣旨に賛同し、日産が独自に企画した職業体験授業で、第1回目は2008年9月に横浜市内の公立小学校2校で5年生約230名を対象に実施しました。日産の現役カーデザイナーが、クルマができるまでの過程やデザインという仕事について紹介するとともに、子どもたちが描いたクルマの絵をもとにスケッチ作業のデモンストレーションを行いました。カーデザイナーの仕事を通して、夢を持つこと、ものご



出張授業では燃料電池車「エクストレイル FCV」の同乗体験などを実施



軽井沢八月祭で活躍した燃料電池車「エクストレイル FCV」



日産の現役カーデザイナーがデザインの仕事を紹介

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

とに一生懸命取り組むことの素晴らしさを伝え、子どもたちの可能性を広げる機会となるよう、楽しい授業を目指しています。

※ 製造業の強みを生かした教育支援プログラム「日産モノづくりキャラバン」 ※

「日産モノづくりキャラバン」は、日産の製造業としての経験・ノウハウをもとに、「モノづくりの楽しさ」を子どもたちに体感してもらおうとの趣旨で企画された、日産オリジナルの教育支援プログラムです。小学生向けに開発されたこのプログラムは、2007年に神奈川県下の公立小学校で開始したのに続き、2008年には栃木県、福岡県へと対象地域を拡大させ、2008年度末までに186校、412教室において出張授業を行ってきました。

授業内容は、組立おもちゃ「日産フレンド号」の組み立てを通して、チームで生産効率を上げるため改善と創意工夫に挑戦してもらうセッションと、生産現場で実際に使用している工具を熟練社員の指導のもとで体験できるセッションから構成されています。チームワークやモノづくりの楽しさを肌で感じてもらう新たな社会貢献活動として今後も継続的に実施していく計画です。

※ 岩手・宮城内陸地震被災地域への義援金拠出 ※

日産は、2008年6月14日に発生した、岩手県内陸南部を震源とする「岩手・宮城内陸地震」により被害を受けた地域への緊急支援として、日本赤十字社を通じて200万円の義援金を拠出しました。

※ 社員の社会参加を支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」 ※

日産は、社員がより積極的に社会貢献活動に取り組めるよう、資金面から支援する「日産ボランティア活動資金支援制度」を1996年から導入しています。社員のシチズンシップ(市民)意識の醸成を目的に設けられたこの制度は、社員が寄付を行うときに会社からも同額の寄付(マッチング・ギフト)を提供するほか、ボランティア活動や物品購入の費用が不足した際には、それらの資金的援助を行うものです。日産は「人々の生活を豊かに」をビジョンに、社員が企業市民として取り組む自主的な活動を支援しています。

※ 地域との協働運営で全国車いすマラソン大会を開催 ※

日産追浜工場では、地域関係団体とともに、全国車いすマラソン「日産カップ追浜チャンピオンシップ2008」を開催しました。この大会は、地域の活性化と障がい者スポーツの普及を目的とした車いす陸上競技の総合大会で、運営にあたり毎年約500名の日産社員や地域の方々がボランティアとして参加しています。2008年12月5日から3日間の日程で行われた第9回大会には、北京パラリンピックのメダリストを含む



熟練社員の指導のもと、工具を使い、モノづくりの楽しさを体験できるセッション



社員やOBが資金支援制度を活用して実施したクリスマス・チャリティ・コンサート

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考えるサステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

約200名の選手が参加。追浜工場内のテストコース「GRANDRIVE (グランドライブ)」や周辺の公道を利用し、ハーフマラソンや短距離タイムレースを行ったほか、地元の小中学生を招いて車いす体験交流会を開催し、障がいを持つ方々への理解を深める機会を提供しました。また、この大会を記念して設立された社員による「太陽募金」では、集められた寄付金を障がい者スポーツ振興に役立ててもらうため、障がい者陸上競技団体などに贈呈しています。

### 科学技術発展への支援を通じて社会に奉仕する「日産科学振興財団」

日産科学振興財団は、「社会の進歩のためのソリューションの創成」をテーマに、日本の学術文化に寄与する「環境研究」「認知科学研究」「科学・技術教育研究」の3分野に重点を置いた助成事業を行っています。1974年の設立以来、これまでの助成実績は累計で約2,100件、助成金額は62億円に上ります。

1993年からは気鋭の研究者を褒賞する「日産科学賞」を毎年実施しています。2008年度は、京都大学大学院生命科学研究科の石川冬木教授が「細胞老化を規定する染色体テロメアの研究」という題目で受賞されました。石川教授の研究は、細胞の老化や癌化の仕組みを明らかにし、その予防・治療法の開発につながるかと期待されています。

2009年2月には、奈良先端科学技術大学院大学とともに「樹木植物バイオテクノロジー国際シンポジウム」を共催。日産科学振興財団が支援を続けてきた若手研究者による研究成果のポスター展示など、内外研究者との相互連携を図りました。

### 北米での社会貢献活動

#### 災害や貧困で家を失った人びとへの支援協力

北米日産会社(NNA)はNGO「ハビタット・フォー・ヒューマニティ」とのパートナーシップを通じて、住居がなく困っている方々のために安価な住宅を提供する支援活動を行っています。2008年には、100万ドルの資金協力を通じて11軒の住居建設のスポンサーを務めました。このうち8軒は、省エネや節水など環境に配慮したエコハウスです。これらのエコハウスでは、トイレやシャワーなどで使用する水量を減らし、室内の温度調節を自動化したほか、エネルギー効率の良い小型の蛍光灯システムやリサイクル素材のカーペットを使用しました。日産は2006年からハビタットの活動に協力しており、これまでに合計300万ドル以上の寄付や大型トラックの提供を行っています。さらに、社員がボランティアとして活動に参加しており、これまでに延べ4万時間分の労働力を提供しています。



車いすマラソン  
「日産カップ追浜チャンピオンシップ2008」



社員がボランティアとして参加し、活動を支援

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上 074</b>	
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに 102</b>	
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

欧州での社会貢献活動

英国で新型水素自動車の開発プロジェクトを支援

英国サンダーランド大学の研究チームが、ガソリンと水素燃料の両方で走行可能な自動車の開発プロジェクトを立ち上げたことを受け、英国日産自動車製造会社では同社サンダーランド工場で製造する「アルメーラ」と、開発に必要な技術ノウハウを提供しました。このプロジェクトにより誕生した「ハイパワー日産アルメーラ」は、水素燃料による走行中は水しか排出されないエコカーで、2008年9月にサンダーランド大学で開かれた国際会議の場で発表されました。同車は新たな水素エンジン技術の開発研究に活用されるほか、学校などの施設で紹介され、技術職に対する学生の関心を高めるのに役立てられています。



新型水素自動車の開発プロジェクトを支援

運転の楽しさを分かち合うために

英国日産自動車製造会社は、盲導犬普及の資金を募るユニークなチャリティ・イベント「ブラインド・ドライブ・デー」に協力しています。このイベントは、視覚障がいのある方がインストラクターとともに運転席・助手席双方にコントローラーのある自動車に乗り、日産のテストコースを実際に走行することができるということです。生まれて初めてクルマを運転する方々にとっては、忘れられない体験となっています。参加者にはドライバーが運転するレーシングカーに同乗して高速サーキットコースを回るスリルも体感していただきました。



視覚障がいのある方にテストコースで運転の楽しさを体感してもらうチャリティ・イベント

一般海外地域での社会貢献活動

タイの子どもたちに本を届ける日産移動図書館

2004年のスマトラ沖大地震とインド洋大津波は、タイに未曾有の被害をもたらしました。これを受けてタイ日産自動車会社(SNA)は、シーカー・アジア財団に「アーバン(日本名: キャラバン)」を寄贈し、被災地域の恵まれない子どもたちに本を届ける移動図書館として役立ててもらいました。寄贈にあたり、大量の本を積み込めるように「アーバン」を改良したほか、維持・補修のサポートや燃料代の支援、教育に役立つ書籍や教材の寄付も行いました。「日産移動図書館」によってタイの農村地域の子どものうちにも本が届けられており、図書館のスタッフが本の読み聞かせなど多様な活動を通して、健全な読書習慣の育成に取り組んでいます。SNAは2008年、こうした教育プロジェクトの強化を決定し、対象地域を広げるために2台目の車両を寄贈しました。



「アーバン」を改良し、絵本をたくさん積み込んだ「日産移動図書館」

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

： 南アフリカ日産によるさまざまな地域貢献活動

南アフリカ日産自動車会社 (NSA) では、有意義な社会貢献を目指してさまざまなプロジェクトを展開しています。このうち、移動眼科診療車「モバイルアイクリニック」、通学用カバンの「アドバッグ」、トンネル栽培で野菜を育てる「ベジトンネル」の3つのプロジェクトは、NSAの社会貢献活動を代表する最重要プロジェクトと位置づけられています。

「モバイルアイクリニック」は、南アフリカの農村地域の小学生に眼科検診を提供する活動です。視力検査用の装置を完備した日産のバン「インタースター」で診療を行い、メガネが必要な子どもたちに毎年4,000個ほどのメガネを処方しています。これまでに、アフリカで地域保健活動を展開するNPOのInternational Centre for Eye Care Educationにバン1台を寄贈しています。

2006年に始まった日産の「アドバッグ」プロジェクトは、日産の看板材をリサイクルしてつくった通学用カバンを農村地域の子どもたちに贈る活動です。バッグの製造は、心身に障がいを抱える方々に委託しています。

3つ目の「ベジトンネル」とは、栽培面全体をネットで覆うことによって虫害を軽減し、収穫量を増やすという取り組みです。プロジェクトに参加した農村地域の小学校は、1校につき2つの「ベジトンネル」を受け取り、野菜はネットで覆ったトンネル状のハウスで安全に育てられ、主に給食用として使用されます。また、これらの野菜の栽培作業を通して地元住民が報酬を得る機会も提供されています。NSAでは毎年、35の小学校に「ベジトンネル」を提供しており、収穫した野菜は約2万5,000人分の給食に使われています。

： 農村地域の学校に対する教育支援

NSAは、南アフリカにおける学校教育の環境改善にも協力しています。そのひとつが過去11年にわたって協賛している「Rally to Read (読み書き大会)」です。毎年5月に南アフリカ7州で行われる同大会では、参加企業が教材を寄贈。それらは大会後に農村地域の学校で読み書きの教本や図書館で所蔵する書籍として使われています。また、教員には生徒の学力に合わせた効果的な教え方ができるよう、トレーニング教材を配布しています。



小学校に「ベジトンネル」を提供し、給食用の野菜を栽培



11年にわたり協賛している「Rally to Read (読み書き大会)」

はじめに	001
CEOメッセージ	002
日産のCSR	006
地球環境の保全	023
安全への配慮	060
<b>ステークホルダーへの価値の向上</b>	<b>074</b>
お客さまのために	075
株主・投資家の皆さまとともに	083
社員とともに	086
ビジネスパートナーとともに	096
<b>社会とともに</b>	<b>102</b>
コーポレートガバナンス	111
社員一人ひとりが考える サステナビリティ	121
事業概況	125
第三者意見書	129

科学技術への興味を育てる移動式科学実験車を提供

南アフリカ・リンポポ州のブワニ科学館では、高校生を対象とした理数科の授業や実験教室を実施しています。こうした学習機会を農村地域の学生にも提供しようと、NSAでは同センターとのパートナーシップのもと、移動式科学実験車の提供や資金援助を行っています。このプロジェクトを通して科学機材や専門知識に触れることで、学生たちは理数科目の成績が向上し、大学の技術系学科への入学資格を得る道も開けます。さらに、自動車業界への就職を目指す人材を増やす役割も期待されています。毎年15校以上、5万人を超える学生にこうした機会が提供されています。



理数科目への興味を育てる移動式科学実験車を提供

大規模災害地域への人道支援

2008年、アジアで2つの国が大規模な自然災害に見舞われ、日産自動車は緊急救援活動に対する支援を行いました。5月上旬にミャンマーで猛威を振ったサイクロン「ナルギス」で被災した地域への支援として、NPO「ジャパン・プラットフォーム」に1,000万円を拠出。5月12日に中国・四川省で大地震が発生した際は、中国赤十字総会に1,500万円を拠出したほか、中国での合弁パートナーである東風汽车有限公司から救難作業用として10台の「キャシュカイ」を提供しました。

中国・シルクロードを徒歩でたどる募金活動

日産（中国）投資有限公司が開催している「日産10年徒歩シルクロード国際市民徒歩大会」は、シルクロード約7,000kmを10年かけて歩きながら募金活動を行うというイベントです。参加者にとっては、歴史的なシルクロードをたどりながら中国の歴史や美術の素晴らしさに触れられるだけでなく、中国の教育や環境問題についてあらためて考える良い機会となっています。このイベントでは、中国の貧困地域にある小学校のための募金活動も行われています。

日産（中国）投資有限公司では、内陸部の貧困地域に住む人びとを列車病院内で無料診療する「健康列車光明行き」事業に対する支援も行っています。初年度の2006年は10万元（約140万円）、2007年からは毎年15万元（約210万円）の寄付を行い、主催者の中国商務省と中華健康列車基金会から感謝状が贈られています。



シルクロード7,000kmを10年かけて歩きながら募金活動を行う



はじめに 001

CEOメッセージ 002

日産のCSR 006

地球環境の保全 023

安全への配慮 060

**ステークホルダーへの価値の向上 074**

お客さまのために 075

株主・投資家の皆さまとともに 083

社員とともに 086

ビジネスパートナーとともに 096

**⋮ 社会とともに 102**

コーポレートガバナンス 111

社員一人ひとりが考える  
サステナビリティ 121

事業概況 125

第三者意見書 129

Messages from Our Stakeholders

ステークホルダーからのメッセージ  
**貧困のない社会をともに築くために**



特定非営利活動法人  
シャプラニール  
= 市民による海外協力の会  
(日本)

筒井 哲朗 氏

私たちは、インド、バングラデシュ、ネパールの3カ国で貧困撲滅に取り組んでいる海外協力NGOです。日産自動車とは、1998年度から始まった日産NPOラーニング奨学金制度、社内で書き損じたはがきを集めてもらう「ステナイ生活」などで協力しています。私たちが活動する南アジア地域の人びとの生活は、経済的に想像を絶するほど厳しいものです。しかし、「生きる力」「家族の絆」「人を思いやる心」など一人ひとりの生活からは、学ぶべきこともたくさんあります。南アジアの人たちも私たちと同じ「今」を生き、「希望」を持っています。そうした人びとの思いを、日産の協力も得ながら、さまざまなプログラムを通して、日本に住む人たちと共有していきたいと考えています。私たち一人ひとりが、住みよい地球をつくる当事者であること。そのためにできることは何なのか、皆さんと思いを膨らませてみたいと思います。